

憲法OBA MJ 連載の現在いま

《 憲法問題特別委員会だより 》

第78回

憲法市民講座

「お笑い人権高座」を開催しました。

憲法問題特別委員会 委員 太田 健 義

最初は爆笑

「とにかく笑って下さい。笑っていれば幸せです。」

こんな言葉から始まった露の新治さんの「お笑い人権高座」。とにかく、会場には、大きな笑い声が響きました。

「笑」の文字が笑っている顔になった自作の絵を披露された時には、大きな拍手も起こりました。

そして、これまた自作の図を使って、ご先祖をずっとたどっていけば、30代さかのぼると、ご先祖は約10億人にもなるという話をされました。

次第にまじめな話へ

10億人だと日本の人口より多いわけで、そこを捉えて、新治さんは「私たちは、皆どこかでつながっているんです。」と話されました。そこから、「私たちは、つながっているのに、なぜ人を差別したり、偏見を持ったりするのでしょうか。差別や偏見は、本当に意味のないことです。」「国籍や人種は選べません。私フランス人に生まれたかったですと言っても、できませんやろ。自分のせいではどうしようもないことで、人を差別したり偏見を持ったりすることには、全く理由がないのです。」という話に移っていきました。

参加者は、それまでの爆笑から打って変わり、頷いたりしながら、新治さんの話を静かに聞いていました。

でも終わりはやっぱり爆笑

人権高座なので、人権についてのまじめな話もされましたが、そこはやはり「お笑い人権高座」。最後は、参加者全員が爆笑しての終了でした。

お弟子さんによるいわゆる色物

新治さんが着替えている間は、お弟子さんがギターとハーモニカを一人で操り、参加者と一緒に「上を向いて歩こう」を合唱しました。ももとは予定してなかったのですが、お弟子さんが場を持たせるために機転を利かせて演じて下さいました。

最後は本格落語

着物を着替えた新治さんが、机の上に毛氈をかけて座布団を敷いた即席の高座で、落語「江戸の茶碗」を披露されました。本来は江戸の話ですが、場所柄、西天満と堂島を舞台にされていました。

人情味あふれる本格落語を堪能した参加者は、新治さんに惜しめない拍手を送っていました。

人権高座、色物、本格落語と本当に楽しい企画でした。

機会があれば、是非とも再演したいと思います。